

9月28日は世界狂犬病デー。

世界的NPOの狂犬病予防連盟が狂犬病ワクチンを発明したパスツールの命日にちなんで行っています。

世界狂犬病デーは、ヒトと動物における狂犬病の影響やその予防法などを人々に知ってもらうことを目的としています。

狂犬病の症状とは？

現代の日本では狂犬病予防法によって、飼い犬へのワクチン接種が義務付けられているため、病名だけは聞き覚えがあるものの、詳しい症状を知らない方も多いのではないのでしょうか。

狂犬病は狂犬病ウィルスを持った動物(主に犬)に咬まれることによって、唾液に交じったウィルスが体内に侵入、1~3ヶ月程度の潜伏期間を経て発症します。

潜伏期間の早期にワクチンを接種することで発症を抑えられますが、ワクチンを接種せずに発症すると以下のような症状を経て死に至ります。



◆前駆期: 発熱、食欲不振、咬傷部位の痛みや搔痒感

◆急性神経症状期: 不安感、恐水及び恐風症状、興奮性、麻痺、幻覚、精神錯乱などの神経症状

◆昏睡期: 昏睡(呼吸障害によりほぼ100%が死亡)

日本では1950年に制定された狂犬病予防法により、わずか7年で撲滅されましたが、世界に目を向けるとイギリスやオーストラリアなどを除いて、多くの患者が報告されており、毎年5万人以上の方が亡くなられています。

怖いのは発症すると治療法がないため、ほぼ100%の確率で死亡するということ。

日本でも海外旅行先で噛まれ、帰国後に発症したという報告もあります。海外では現地のイヌやネコにむやみに触らないことが最も狂犬病のリスク回避になるとされ、万が一噛まれた場合は直ちに洗浄とワクチン接種を受けなければなりません。

出典: 厚生労働省ホームページ (<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/>)

犬を飼う時には以下の事柄を必ず守りましょう

日本では狂犬病予防法にもとづいて、犬の飼い主には以下のことが義務づけられています。

- ◆市町村に犬を登録すること。
- ◆犬に毎年狂犬病の予防注射を受けさせること。
- ◆犬に鑑札と注射済票を付けること。

これらのことをきちんと守り、狂犬病に対して正しい知識を持ちましょう。

